

ガス供給セキュリティ問題に関する IEA での意見交換

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

4 月 14 日、パリ IEA 本部において、ガス供給セキュリティ問題に関するワークショップが開催された。この会議では、世界のガス・LNG 供給セキュリティ問題に関する現状と課題、それを踏まえて IEA がどのような役割を果たすべきか、について、参集した 30 名あまりの専門家によって、チャタムハウスルールに基づく率直な議論が交わされた。この会議のそもそもの目的は、2015 年 11 月の IEA 閣僚会合での合意に基づき、IEA の新しい「Mandate」として、ガス供給セキュリティ問題への取り組みを含める方針が定められ、そのため IEA が世界の専門家との意見交換を通して、IEA にとって有益な知見を蓄積し、IEA に対する提言を求めたものであった。終日実施された会議では、ガス供給セキュリティを強化するための市場透明性の確保と市場流動性の重要性、供給セキュリティ強化にとっての投資の必要性、緊急時対応能力強化の重要性、等様々なテーマについて、活発な議論が行われた。以下では、その中で筆者にとって特に印象に残ったポイントを整理したい。

第 1 に、ガス供給セキュリティ問題が、今日の世界のガス・LNG 市場の需給環境、即ち需給緩和と低価格状況の下で議論されたことが興味深かった。しばしばありがちなことであるが、供給セキュリティ問題が大きくクローズアップされ、重要課題として認識されるのは、市場の需給が逼迫し、価格が高騰している時である。しかし、現時点では、米国ヘンリーハブ価格は 100 万 BTU 当たり 2 ドル前後、アジアのスポット LNG 価格が同 4 ドル台、など低価格状況が続いている。市場には潤沢な、あるいは潤沢すぎるほどの供給が存在しており、目の前に「供給危機」が迫っているわけではない。

そのため、会議の議論の一つの焦点は、眼前の危機に対応するというよりは、供給セキュリティの確保にとって市場機能が十分に働くことの意味は何か、その点でガス市場は十分に市場機能が働いていると言えるのか、という点にあった。石油市場がよりグローバルな性質を持つのに対して、徐々にグローバル化が進んでいるとはいえ、ガス市場はまだ地域性が強く、ガス供給セキュリティに関する潜在的なリスク要因も地域によって、国によって大きく異なる状況となっている。また、市場機能が十全に発揮されるためには、市場に関するタイムリーかつ正確な情報が存在していることが重要である。どの市場でも、その点ではいずれも完全からは程遠い状況にあるものの、世界の石油市場を巡る情報の利用可能性と比べて、ガス市場は相当改善の余地があるという議論が多く聞かれた。まさに、その点において今後 IEA が大きな役割を果たしていく可能性がある。

第 2 に、現在の低価格状況が逆に将来のガス供給セキュリティ上の課題を作り出しているのではないかと、それに世界の関係者はどう対応していくべきなのか、という観点でも議

論が行われたことを挙げたい。確かに現時点で世界のガス・LNG 価格は低く、消費者・国としてはその恩恵を享受できる状況にあるが、まさにその低価格のため将来必要とされるかもしれない供給投資が延期・削減・中止される事態となっていることは周知の事実である。LNG 市場の分析においても、2020年頃までは現在の供給過剰が続くが、逆にそれ以降は新規 LNG プロジェクトの最終投資決定が現状では困難になっていることから供給拡大が需要増大のテンポに追いつかなくなり、需給環境が大きく変わる可能性も指摘されるようになっている。ガス・LNG の供給セキュリティ問題を検討していく上には、現状の市場情報の分析だけでなく、将来見通しの充実・向上も重要な課題になる。

また、将来の不確実性を考慮して供給セキュリティ問題に対応するという点では、そもそも需要の不確実性をどう考えるか、という論点もある。今後のガス・LNG 需要がどうなるか、に合わせて必要な供給チェーン全体の能力を適正に確保していく必要があるが、今日それは決して容易でない。先進国・新興国ともに経済成長に関する不透明性が高く、まだガスが競合するエネルギー源、石炭・原子力・再生可能エネルギーの将来についても様々な不確実性と可能性がある。その観点では、今回の会議の議論の中で、COP21「パリ協定」合意を踏まえ、世界が気候変動対策をどの程度強化していくのか、その中でガスがどのような役割を果たすのか、という視点も将来のガス・LNG 問題を考える上で極めて重要であるという議論も活発に行われ、極めて興味深かった。これらの不確実性に対応して、客観的・科学的・合理的な観点からガスおよび世界のエネルギー市場の将来像の分析を行っていくことも IEA に求められる重要課題であろう。

第3に、眼前に迫っている問題ではないが、本質的にガス供給セキュリティ問題には、何らかの緊急事態にエネルギー政策関係者がどう対応すべきか、という問題があることは自明である。IEA は1973年の第1次石油危機に直面した先進諸国が危機対応のために設立した機関であり、以来、石油供給途絶対応を含めた石油供給セキュリティ問題への対応をその Mandate としてきた。その点、IEA には既に石油供給セキュリティ問題に対する十分な知見と経験の蓄積があると言って良い。もちろん、石油市場とガス・LNG 市場には、共通点・類似点もあるが、前述したグローバル化の度合いを始め、様々な差異もある。そのため、ガス・LNG 供給セキュリティ問題の深刻さの度合い、最も重要・深刻な潜在的リスク要因は何か、等は国によって、地域によって全く異なるという側面もある。IEA は石油市場での経験で培った供給セキュリティ問題への知見を活用するためにも、まず各国の、各地域のガス・LNG 市場の課題を正確に把握し、必要な政策に関する分析を進めることが求められるのではないかと。また、将来起こりうる様々なリスクシナリオを準備し、その下で緊急時に対応する準備検討のエクササイズを、まさに石油市場での経験を活用しながら、展開していくことも IEA が果たしうる役割ではないかと考えられる。

ガス・LNG が今後も重要なエネルギーとして世界のエネルギー市場での役割を高めていくことが期待される中、その供給セキュリティ確保も当然のことながら重要な課題となる。供給セキュリティ確保のための政策のコストとベネフィットを十分勘案しながら、各国はその政策検討を進めていく必要があるが、IEA はその中で、市場分析・政策提言・緊急時対応等の様々な面で役割を果たしていくことが重要になるだろう。

以上